

製品名: ATP5H ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07334**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	26kDa

抗原情報

遺伝子名	ATP5H
別名	ATP5H; My032; ATP synthase subunit d; mitochondrial; ATPase subunit d
遺伝子 ID	10476.0
SwissProt ID	O75947
免疫原	抗血清はヒト ATP5H 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 111-160

背景

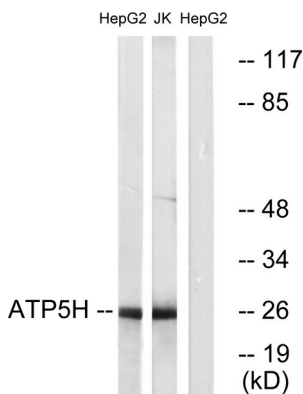
ミトコンドリア ATP 合成酵素は、酸化的リン酸化反応中に内膜を横切るプロトンの電気化学的勾配を利用して ATP 合成を触媒する。この酵素は、可溶性の触媒コアである F1 と、プロトンチャンネルを構成する膜貫通構成要素である Fo という、2つの連結した多サブ

ユニット複合体から構成される。F1 複合体は、5つの異なるサブユニット (α 、 β 、 γ 、 δ 、 ϵ) から構成され、 α サブユニット3個、 β サブユニット3個、および他の3つのサブユニットを代表する1個の比率で組み立てられている。Foは9つのサブユニット (a、b、c、d、e、f、g、F6、および8) から構成されると考えられる。この遺伝子は、Fo複合体のdサブユニットをコードしている。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが同定されている。さらに、3つの疑似遺伝子が染色体9、12、15に位置しています。[RefSeq 提供、2010年6月]、機能：ミトコンドリア膜 ATP 合成酵素 (F (1) F (0) ATP 合成酵素または複合体 V) は、呼吸鎖の電子伝達複合体によって生成される膜を横切るプロトン勾配の存在下で、ADP から ATP を生成します。F 型 ATPase は、膜外触媒コアを含む F (1) と膜プロトンチャネルを含む F (0) の2つの構造ドメインで構成され、中心茎と周辺茎でつながっています。触媒中、F (1) の触媒ドメインでの ATP 合成は、中心茎サブユニットの回転機構を介してプロトンの移動と結合しています。複合体 F(0)ドメインと周縁茎の一部であり、触媒 $\alpha(3)\beta(3)$ サブ複合体とサブユニット a/ATP6 を回転要素に対して静止状態に保つ固定子として機能する。類似性：ATPase d サブユニットファミリーに属する。サブユニット：F 型 ATPase は、触媒コアである CF(1)と膜プロトンチャネルである CF(0)の2つの構成要素を持つ。CF(0)には、a、b、c、d、e、f、g、F6、8 (または A6L) の9つのサブユニットがあると考えられる。

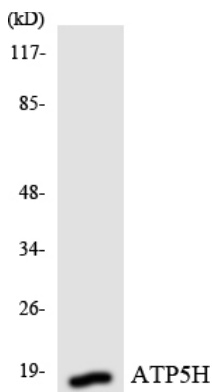
研究分野

酸化リン酸化、アルツハイマー病、パーキンソン病、ハンチントン病、

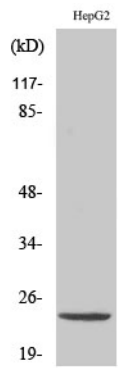
画像データ



ATP5H 抗体を用いた HepG2 細胞および Jurkat 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



ATP5H 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 2000 希釈の ATP5H ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析